

令和 4 年 6 月 23 日現在

機関番号：13902

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2019～2021

課題番号：19K23286

研究課題名（和文）キャリア形成型コンピテンシーの育成を図る指導要素の解明

研究課題名（英文）Elucidation of Guidance Elements for Fostering Career-Building Competency

研究代表者

清水 克博（SHIMIZU, KATSUHIRO）

愛知教育大学・教育学部・特別教授

研究者番号：90847344

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,200,000円

研究成果の概要（和文）：教科等での学びを基にキャリア形成型コンピテンシーの育成を図るには、キャリア・パスポート例示資料(文科省)で示された学期や学年、学校種を超えた「学びの継続性」「学びの内省」に加え、内省を深めるための「学びの評価」、過去・現在・未来をつなぐ「学びの時間的展望」が指導要素として必要であることが明らかとなった。

また「学びの時間的展望」では、時間の枠組みを越えた「縦断的な学びのつながり」と同一時期の教科の枠組みを越えた「横断的な学びのつながり」を図る視点が必要なこと、「学びの評価」では、自己評価に加えて学習者をよく知る仲間からの相互評価の仕組み指導要素として必要なことが明らかとなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

キャリア形成型コンピテンシー育成を図るための指導要素として、校種を超えた「学びの継続性」、過去、現在、未来の視点で考える「学びの時間的展望」、学びをまとめ、次の学びにつなぐ「学びの発展性」と、「学びの発展性」を実現するために必要な学習者のための「学びの評価」が必要であることが明らかとなった。特に「学びの評価」については、学習者のための評価として、自己評価だけでなく、学習者をよく知る仲間からの相互評価が必要であること、また、「学びの時間的展望」においては、学年、校種を越えた縦断的な視点とともに、同一時制における教科の枠組みを越えた横断的視点を含めた立体的な視点が必要であることが明らかとなった。

研究成果の概要（英文）：In addition to "continuity of learning" and "reflection on learning" as indicated in the Career Passport example documents, it became clear that "evaluation of learning" to deepen reflection and "temporal perspective of learning" to link the past, present, and future are essential elements for fostering career-oriented competencies.

In addition, it became clear that "temporal perspective of learning" requires a perspective of "longitudinal linkage of learning" and "transversal linkage of learning" that transcends the framework of time and subject matter, and that "evaluation of learning" requires a system of mutual evaluation by peers who know the learner well in addition to self-evaluation as a guiding element. In addition to self-evaluation, a system of mutual evaluation by peers who know the learners well is necessary as an element of instruction.

研究分野：キャリア教育

キーワード：キャリア教育 キャリア・ポートフォリオ キャリア形成型コンピテンシー 構成要素 初等中等教育 授業分析

様式 C-19、F-19-1、Z-19（共通）

1. 研究開始当初の背景

知識基盤社会に生きる児童生徒に次世代の人材として不可欠な資質能力（以下、キャリア形成型コンピテンシー）である「学びのプロセスを振り返る力」「学びを通じた自らの成長・変容を自己評価する力」「主体的な学びに向かう力」を育てることが学校教育の重要な役割の一つである。その手段として、過去の学びを「まとめ」新たな学びに「つなぐ」キャリア教育が重視され実施されているが、そこでは教科等を通じて得た知識・技能や経験を学びとして継続的に特別活動を中心とした時間に「まとめ」、残された課題から新たな学びに「つなぐ」ことで、児童生徒にキャリア形成型コンピテンシーの獲得が図られたかどうか重要な意味を持つ。特に、教科等を通じて得た知識・技能や経験を学びとして「まとめ」、新たな学びに「がつなぐ」ための「キャリア・ポートフォリオ（以下、CP）」の使用が中央教育審議会答申（2016）において提言されたが、キャリア教育におけるキャリア形成型コンピテンシーの育成を図るために、必要な指導要素は解明されておらず、重要な課題として残り続けていた。また、教科、特別活動など教科・領域を対象にした学びを「まとめ」、同じ教科・領域において次の学びに「つなぐ」研究は行われているものの、教科等での学びを特別活動を中心とした時間で総合的に「まとめ」、新たな課題から次の学びに「つなぐ」キャリア教育の研究は少なく、改善・充実が求められていた。

2. 研究の目的

本研究では、キャリア教育を対象として、キャリア形成型コンピテンシーの獲得のためにいかなる指導要素を用いて、どのような順で指導要素を位置づけて実施すればよいか、科学的根拠を明らかにすることを目的とする。

3. 研究の方法

《1年目》

1. CPを用いたキャリア教育実践研究の現状分析

都道府県等教育センター研究所HPから小中学校の実践研究を管見し、CPの実践研究の状況を分析し、キャリア教育に用いられるCPの実態と課題を明らかにした。

2. 「先進的キャリア教育実践校」CP開発者へのインタビュー調査からの指導要素の検討

CPの実践研究分析で明らかとなった先進的CP開発校5校（小学校2校、中学校2校、高等学校1校）と県教育委員会（1県教委）を訪問し、CPを開発し授業実践を行っている教員並びに指導主事に対してCPの開発に関する半構造化インタビュー調査を実施し、キャリア形成型コンピテンシー育成に必要な指導要素を検討した。

《2年目》

3. 「先進的キャリア教育実践校」の授業分析からの指導要素の検討

参与観察・調査が可能となった中学校1校を継続的に訪問、参与観察して、CPを用いて教科等での学びの成果を「まとめ」新たな学びに「つなぐ」授業の授業分析からキャリア形成型コンピテンシーに必要な指導要素の検討を行った。

4. 「先進的キャリア教育実践校」で用いるCPからの指導要素の検討

CPを通じてキャリア形成型コンピテンシーに対する考えの相違点を明らかにするため、相互の関係性が高い2人（県教育委員会指導主事及び指導主事の下でキャリア教育研究を進めた中学校教員）を対象に、1年目に収集したインタビューデータの分析を行い、キャリア形成型コンピテンシーに必要な指導要素の検討を行った。

5. 「指導モデル」開発による指導要素の確かめ

これまでの研究成果から明らかとなった指導要素を組み込んだCPとこれを用いた指導モデルの確かめをするため、12月に授業を実施予定であったが、当該校のコロナ感染拡大により3月に延期、3月も再び休校のため、授業実施が翌年度12月に持ち越しとなった。また、その成果を受けて3月に再度、授業を実施する予定であったがコロナによる休校措置となり、授業参観ができなかった。このため、協力者から授業データの提供を受け、現在分析中である。今後、国内学会等で順次、発表する予定である。

4. 研究成果

(1) CPを用いたキャリア教育実践研究の現状分析 ①

初等中等教育のキャリア教育において用いられるCPの現状と課題を明らかにするため、

先行研究を参考に分析視点として、校種を超えた「学びの継続性」、学びを過去、現在、未来の視点で考える「学びの時間的展望」、学びをまとめ、次の学びにつなぐ「学びの発展性」と、「学びの発展性」を実現するために必要な学習者のための「学びの評価」に定めた。

その上で、2019年9月までに都道府県政令指定都市中核都市の教育委員会、教育研究所、教育センターで公表されたキャリア教育に関する教育実践研究（計117件）を管見し、それらの中で用いられたCPの評価を行った。

表1 「学びの発展性」「学びの継続性」「学びの時間的展望」の評価規準

横軸	1 発展性の程度	意味・視点・考え方	
	内容がない「まとめ」	学習の対象、内容のまとめの記述や、記述項目しか確認できない。	
	内容を伴う「まとめ」	学習の対象、内容のまとめに感想・気づき・自分なりの価値の付与をもった気づきがあるような記述や記述項目は確認できるが、それを新たな学びにつなげるような記述や記述項目が確認できない。	
縦軸	2 継続性の程度	使用するシートの特徴	
	単発	継続性の乏しいシート	
	数時間	校種の違いを見据え、学習の場特性を考慮したシート	
	学期内		
	学年内（学期を超える）		
	学年を超える		
校種を超える			
座標内	3 時間的展望の程度	時制の数の違い	対象とする時制
	一番小さなバブル	1つの時制での実践	「過去」、「現在」、「未来」のいずれか
	真ん中の大きさのバブル	2つの時制での実践	「過去-現在」「現在-未来」「過去-未来」のいずれか
	一番大きなバブル	3つの時制での実践	「過去-現在-未来」

中央教育審議会（2016）が「キャリア・パスポート」の考えを示した時期を前後して校種を超えた「学びの継続性」を図り、キャリア教育としての学びをまとめ、自己の学習成果の内省につなげるまでの「学びの発展性」を果たすCPが、実践研究の中で多く開発されていることを確認した。

また、「学びの評価」として「評価者数の程度」を縦軸に、「学びの発展性」としての「発展性の程度」を横軸にした座標平面を設定し、類型化を図った。

具体的には、「発展性の程度」の規準はそのままに、「評価者数の程度」は評価者の立場の違い（自分、仲間、教師、保護者を含む他者）を基に評価に加わった立場の違いの数で分析を行った（1から4つの立場まで）。

その結果、学習者が「学びの発展性」を図る際に、自身の学びの過去と現在、未来という3つの時制を備えた「学びの時間的展望」の視点で学びを振り返る用意が多くポートフォリオで十分ではないことを明らかにした。さらに、学習者に「学びの発展性」を図るためには学習者自身の自己評価だけでなく、学級の仲間、教師、保護者といった学習者の学習過程や成果を知る身近な他者からの評価を根拠に自己の学びをまとめ、次に取り組む学習につなぐ学習者のための「学びの評価」の仕組みが必要であるが、公表されたキャリア教育の実践研究で使われるポートフォリオではこうした仕組みが不十分であることが確認できた。

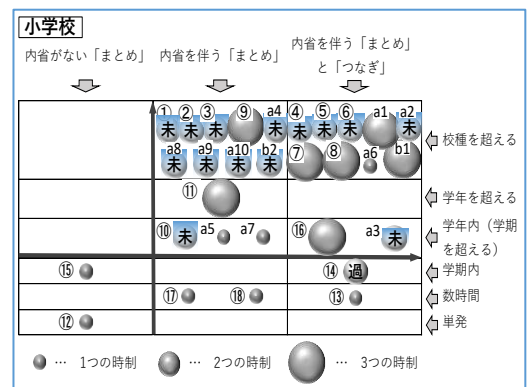


図1 継続性・発展性・時間的展望を分析軸とした分析結果(小学校30件)

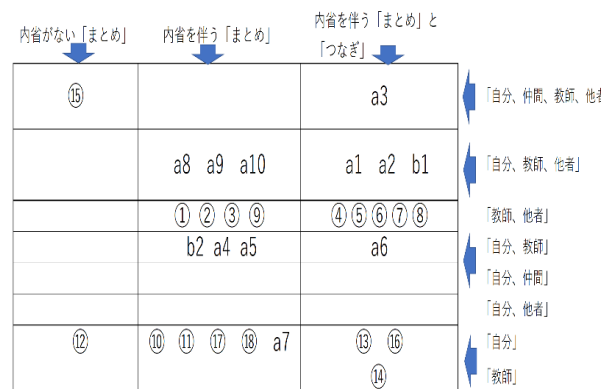


図2 発展性・評価を軸とした分析結果(小学校30校)

(2) 「先進的キャリア教育実践校」CP開発者へのインタビュー調査からの指導要素の検討 ②

CPを用いたキャリア教育実践の中で、先進的教育実践であると判断した教師が「過去・現在・未来」に渡る時間的な枠組みを持って学びをまとめる「学びの時間的展望」の視点に対して、指導要素としてどのように捉えているかを明らかにするためにインタビュー調査で得たデータを、SCATを用いて分析した。その結果、教師は同一時制における教科等

の異なる学びをつなぐ「横の学びのつなぎ」が必要であると考えていることがわかった。

また同時に、時制の異なる学びをまとめ、つなぐ際にもそれぞれの時制における教科等の異なる学びも考慮してつなぐ「縦の学びのつなぎ」が必要であると考えており、この両方を併せて「立体的な学びのつなぎ」と考えていることがわかった。全体として、調査した教師は「学びの時間的展望」を含意する「立体的な学びのつなぎ」をキャリア形成型コンピテンシーの育成のための重要な指導要素の1つと捉え、その実現を目指して学校独自のCPの開発に取り組んでいた。

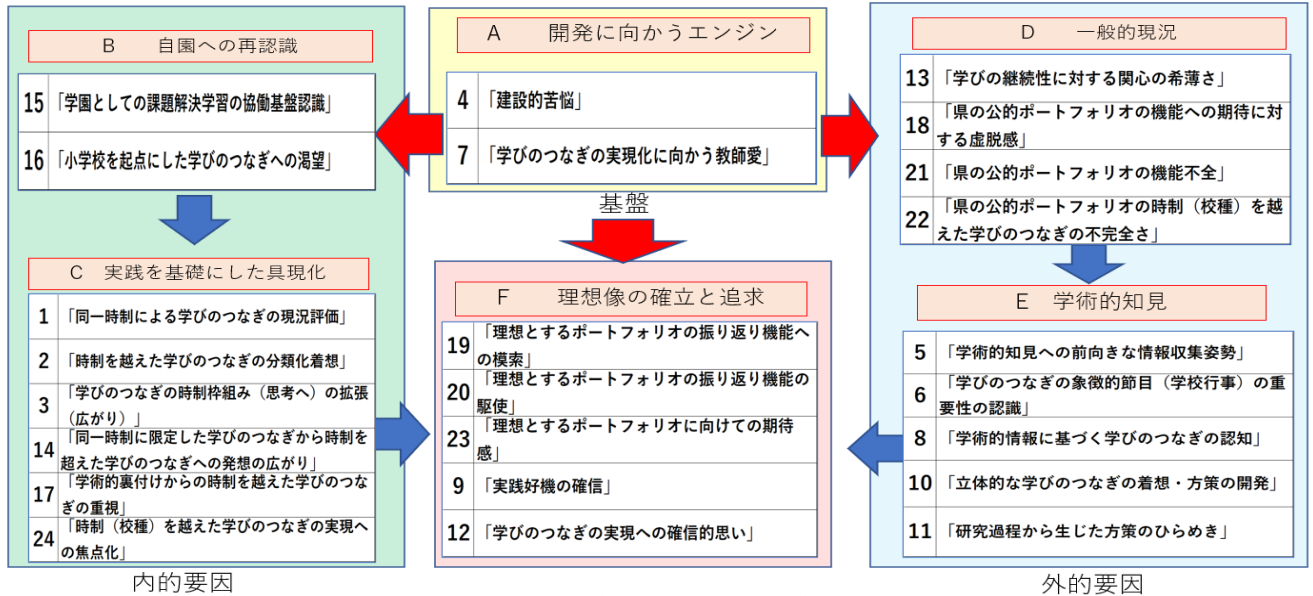


図3 階層と上位概念、CPの構成概念の関係図

(3) 「先進的キャリア教育実践校」の授業分析からの指導要素の検討 ③

キャリア形成型コンピテンシーの獲得のために指導要素のうち、「学びの評価」がどのように機能するかを、授業分析から明らかにすることを目的に授業分析を行った。

図4は、授業でのペアによる「学びの評価」についての発言の出現状況を「主張」「まとめ」「気づき」「促進」の4つのカテゴリーから表したグラフである。分節2「小学校、中学校の学びでの自己の成長」では、「主張」が分節の終わりまで段丘的に増加している。小中学校9年間の自己の学びの成果についてのペア内で生徒同士が相互に「主張」し、少し意見交換が行われたあと、議論を踏まえて再び「主張」をペアの生徒同士で繰り返していることが分かる。また、ペアの片方が躊躇していたり、気づいていなかったりすることをペアの相手が認知させる「促進」の発言は、継続的に出現している。また、「気づき」も「促進」と連動して継続的に出現している。この「促進」と

「気づき」の関係は、ほぼ全てで「促進」が先に出現し、これに続いて「気づき」が出現する関係にある。すなわち、当初「主張」により、小中学校の学びの成果をペアのそれぞれが主張したあと、聞き手となっていたペアが、自分の学びの成果として「主張」するペアが気づいていないことや、本人が成果として評価することを躊躇していることについて正當に評価するように聞き手のペアが「促進」する働きかけをしていると捉えることができる。ペアによる「学びの評価」についての話し合いにおいては、片方のペアの「促進」がなされることで、もう片方の「気づき」を生み出す機能が生じていた。

分節4の「今後の課題」での様相を見ると、「主張」は少なく、「まとめ」とそれに引き続き「促進」「気づき」が出現している。分節2の話し合いの結果を受けて、それまでの話し合いを基礎に

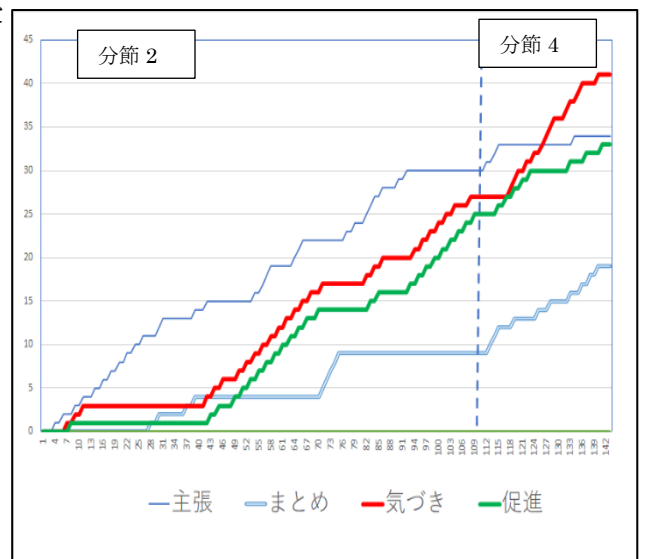


図4 相互評価における発言内容別出現度数グラフ

本人がまだ気づいていないことや、躊躇していることを支える「促進」がこの場面ではなされ、それを受けて「気づき」そして自分の意見として「まとめ」が行われていた。

このように、ペアによる相互評価と行う「学びの評価」では、学習者に対してペアとなる学習者が、学習者自身の評価から漏れた評価を補完、強化し、否定的捉えを和らげるモニタリング機能を果たすことがわかった。

そして、こうしたモニタリング機能が学習者個人のみで行う「学びの評価」に比べて評価対象の範囲が広がり、「学びの評価」が深まることが確認できた。日頃から学習者の状況をよく知り、学習者の学びを理解する仲間による相互評価としての「学びの評価」は、キャリア形成型コンピテンシーの育成において重要な指導要素となることが明らかになった。

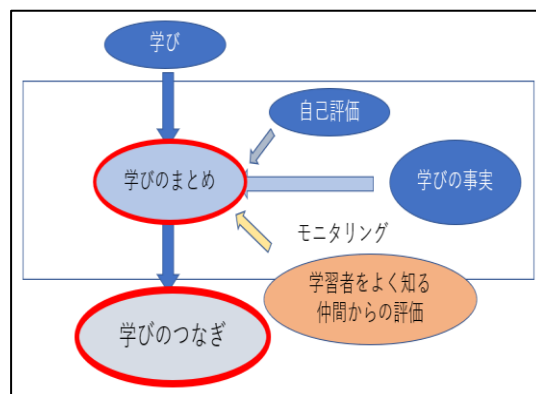


図5 相互評価におけるモニタリング機能

(4) 「先進的キャリア教育実践校」で用いるCPからの指導要素の検討 ④

指導要素「学びの評価」の内容をより具体化するために、学びを「まとめ」「つなぐ」CP開発者として共通性が見られる2人（県教育委員会指導主事Aと、指導主事の指導の下で学校独自のCP開発した教員B）へのインタビュー内容を、計量テキスト分析を用いて比較検討を行った。

分析の結果、2人に共通していた「学びの評価」を具体化するためのCPの内容は「研究動機」「県キャリアノートへの課題意識」「開発指針」であった。

こうした共通性を基盤に、Aは、県下で小中高校を通じて活用してもおうとするマクロ的視点から「高校へのつなぎ」「汎用性」を基軸にしてCPを開発していた。小中一貫教育校のBは9年間の学びの成果をとらえさせるといったミクロ的視点でCP開発し、「学校が育てる資質能力」「長期的スパンによる縦断的振り返り」「他者評価を図る方策」「ペアによる相互評価の導入」「評価根拠の簡潔化」を基軸に開発していた。

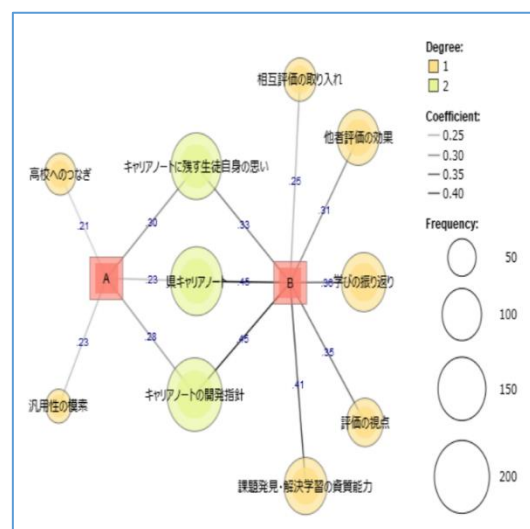


図6 コーディングによる共起ネットワーク

<引用文献>

- ① 清水克博、胡田裕教、角田寛明、初等中等教育におけるポートフォリオを活用したキャリア教育の現状と課題—学びの継続性・発展性、時間的展望の分析と他者による評価の考察を通して—、愛知教育大学教職キャリアセンター紀要第5巻、pp49-58、2020.
- ② 清水克博、胡田裕教、角田寛明、キャリア・ポートフォリオの指導要素としての『学びの時間的展望』の実証的研究—公立学園H中学校開発担当者へのインタビュー調査を通して—、愛知教育大学研究紀要第70巻、pp50-58、2021.
- ③ 清水克博、胡田裕教、角田寛明、キャリア形成型コンピテンシーの育成を図る指導要素の検討—小中一貫学園のキャリアノートを用いた実践の授業分析を通じて—、愛知教育大学教職キャリアセンター紀要第6巻、pp27-36、2021.
- ④ 清水克博、胡田裕教、角田寛明、キャリア・ポートフォリオの「学びの評価」に関する研究—県開発担当者与实践開発者に対するインタビュー調査の分析を通して—、愛知教育大学教職キャリアセンター紀要第7巻、pp1-9、2022.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計7件（うち査読付論文 3件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 7件）

1. 著者名 清水克博、胡田裕教、角田寛明	4. 巻 7
2. 論文標題 キャリア形成型コンピテンシーの育成を図る指導要素の検討ー小中一貫教育学園のキャリアノートを用いた授業分析を通じてー	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 愛知教育大学教職センター紀要	6. 最初と最後の頁 1, 9
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 清水克博、胡田裕教、角田寛明	4. 巻 71
2. 論文標題 学年・教科の枠組みを超えて学びを「まとめ」「つなぐ」キャリア・ポートフォリオの検討 中学校卒業期に用いるキャリア・ポートフォリオの比較を通して	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 愛知教育大学研究報告	6. 最初と最後の頁 32, 40
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 清水克博、胡田裕教、角田寛明	4. 巻 70
2. 論文標題 キャリア・ポートフォリオの構成要素としての「学びの時間的展望」の実証的研究 公立学園H中学校開発担当者へのインタビュー調査を通してー	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 愛知教育大学研究紀要（教育科学編）	6. 最初と最後の頁 50, 58
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 清水克博、胡田裕教、角田寛明	4. 巻 6
2. 論文標題 キャリア形成型コンピテンシーの育成を図る指導要素の検討 小中一貫学園のキャリアノートを用いた実践の授業分析を通じてー	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 教職キャリアセンター紀要、愛知教育大学	6. 最初と最後の頁 27, 36
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 清水克博	4. 巻 29
2. 論文標題 『なす』と『学ぶ』を結ぶ「振り返り」の可能性 「キャリア・パスポート」との関わりからー	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本特別活動学会紀要	6. 最初と最後の頁 44, 53
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.51044/tokkatsu.29.0_15	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 清水克博、胡田裕教、角田寛明	4. 巻 5
2. 論文標題 初等中等教育におけるポートフォリオを活用したキャリア教育の現状と課題 - 学びの継続性・発展性、時間的展望の分析と他者による評価の考察を通して -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 愛知教育大学教職キャリアセンター紀要	6. 最初と最後の頁 49, 58
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 清水克博	4. 巻 26
2. 論文標題 日本の初等中等教育におけるキャリア・ポートフォリオのあり方ー時間的展望と深い学びを通してー	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日仏教育学会年報	6. 最初と最後の頁 44, 53
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計6件(うち招待講演 0件/うち国際学会 1件)

1. 発表者名 清水克博、胡田裕教、角田寛明
2. 発表標題 キャリア・ポートフォリオの構成要素の解明 - 公立H学年H中学校開発担当者へのインタビュー調査を通してー
3. 学会等名 日本教育方法学会 第56回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 清水克博、胡田裕教、角田寛明
2. 発表標題 学びをつなぐキャリアポートフォリオにおける自己評価と他者評価の可能性
3. 学会等名 日本キャリア教育学会第42回研究大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 清水克博、胡田裕教
2. 発表標題 学びをつなぐキャリアポートフォリオの可能性 小中一貫学園の授業分析を通じてー
3. 学会等名 日本特別活動学会第29回岡山大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 清水克博、胡田裕教、角田寛明
2. 発表標題 初等中等教育におけるキャリ・ポートフォリオの構成要素 - 学びの継続性・発展性, 時間的展望の分析と他者による評価の考察を通して -
3. 学会等名 日本キャリア教育学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 清水克博、胡田裕教、角田寛明
2. 発表標題 The Way of a Portfolio Contributing to the Improving Lesson of the Career Education in Japan : Through the Present Analysis of Elementary and Secondary Education
3. 学会等名 World Association of Lesson Studies International Conference 2019 (WALS2019) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 胡田裕教、清水克博
2. 発表標題 特別活動を要したキャリア教育のポートフォリオのあり方 - 初等中等教育の現状を通して -
3. 学会等名 日本特別活動学会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	胡田 裕教 (EBITA Hiroyuki) (90909441)	滋賀県立大学・全学共通教育推進機構・特任教授 (24201)	
研究協力者	角田 寛明 (TSUNODA Hiroaki) (30884184)	東北学院大学・就職キャリア支援部・特任准教授 (31302)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------